



第 学年 組 番 名前

分からないときは、  
ヒントを見よう。

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

- 1 新しい工事に着手する。
- 2 休み時間は屋外で遊ぶ。
- 3 会長の仕事を委ねる。
- 4 都合をつけて出かける。
- 5 病院で投薬される。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

- 1 こん虫がうかする様子を見る。
- 2 わく内に数字をきにゆうする。
- 3 鳥のけんきゆうをする。
- 4 雨にぬれたろめんが黒く光る。
- 5 ふえをふく少年の絵がある。

5	4	3	2	1

〈ヒント〉

- 一 1 「着」は「着席」と同じ読みだよ。
  - 2 「屋」は「屋上」と同じ読みだよ。
  - 3 「委」は「○だ」（ねる）と読むよ。
  - 4 「都」は「と」と読んではいけないよ。
  - 5 「投」は「投手」と同じ読みだよ。
- 二 1 「うか」とは「昆虫が成虫になって、□が生えること」だよ。
  - 2 「きごう」の「き」と「にゆうがく」の「にゆう」の組み合わせだよ。
  - 3 「けん」の部首は「いしへん」、「きゆう」の部首は「あなかんむり」だよ。
  - 4 「ろめん」とは「どうろ」の「ひょうめん」のことだよ。
  - 5 「たけかんむり」と「りゆう」の「ゆう」の組み合わせだよ。



分からないときは、  
〈ヒント〉を見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましよう。

- 1 作物の生長は、天気に左右される。
- 2 走行時間を調べる。
- 3 食品の売買をする。
- 4 駅から学校までの時間を計る。
- 5 人事をつくして天命を待つ。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましよう。

- 1 やくしやになるという夢をもつ。
- 2 相手にまさる強い気持ちがある。
- 3 したしい人に相談する。
- 4 紙のちゆうおうに円を書く。
- 5 力を合わせて大きな石をはこぶ。

5	4	3	2	1

〈ヒント〉

- 一 1 「左」は「左折せつ」と同じ読み、「右」は「〇う」と読むよ。
  - 2 「走」は「走者」や「助走」と、「行」は「行進」と同じ読みだよ。
  - 3 「うりかい」ではないよ。「売」も「買」も同じ読みだよ。
  - 4 「凶る」や「測る」と同じ読みだよ。
  - 5 「天」は「天気」と、「命」は「命令」と同じ読みだよ。
- 二 1 いろいろな「やく」をえんじる「もの」のことだよ。  
 2 気持ちの強さで相手に「か(つ)」「んだね」。
- 3 「おや」こそ「したしい」人かも。
  - 4 「ちゆうおう」は、まんなかのことだよ。
  - 5 「うんどう」の「うん」の訓読みだよ。



分かち書きは  
「ヒント」を見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

- 1 小さな国の君主になる。
- 2 先生に教わったことを書く。
- 3 名目だけの役割<sup>わり</sup>。
- 4 めずらしい雲海を目にする。
- 5 顔色<sup>いろど</sup>をうかがう。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

- 1 他の国のげんご<sup>ご</sup>を学ぶ。
- 2 給食<sup>ききう</sup>とうばんになる。
- 3 見えるのはひょうざんの一角だ。
- 4 ちがう学級の人とこうりゆうする。
- 5 ひとしく分ける。

5	4	3	2	1

＜ヒント＞

- 一 「君」、「主」ともに音読みで読もう。 2 「おしえる」ではなくて「お〇わる」だよ。「目」を「め」と読んではだめだよ。
- 2 「くも」、「うみ」ではなくて、どちらも音読みをしてみよう。
- 3 どちらも、そのまま訓読みで読むといいよ。
- 二 1 「げん」も「ご」も言葉に関係している漢字だね。「じゅんばん」にその役目が「あたる」んだね。
- 2 「ひょうざん」は「こおり」の「やま」のことだよ。「こおり」は「水」が固まったものだから、漢字が似ているよ。
- 3 「こう」の訓読みは「まじる」、「りゅう」は「ながれる」ことだよ。
- 5 「ひとしく」分けると「びょうどう」になるね。



分からないときは  
ヒントを見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましよう。

- 1 みこしが大通りを練り歩く。
- 2 多才な人をしようかいする番組。
- 3 空調機能きこのうに優すぐれている。
- 4 おもしろい文庫本を手に入れた。
- 5 朝礼で話をする。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましよう。

- 1 じどうでふたが開く。
- 2 急にしつないの温度が上がる。
- 3 遊びに行けないりゆうをたずねる。
- 4 私わたしは友人へのじよりよくをおしまない。
- 5 来週らいしゅうのよていを立てる。

5	4	3	2	1

ヒント

- 一 1 ねんどうを「練る」、案を「練る」と同じ読みだよ。
- 2 「多」を音読みしよう。「おおい」は訓読みだよ。
- 3 「空気」、「調整」と同じ読みだよ。 4 「学級文庫」の「文庫」だよ。
- 5 「あさ」だと訓読み、「〇よ〇」だと音読み。人に会ったら「礼」をします。
- 二 1 「しぜん」に「う」。「い」でふたが開くんだね。
- 2 「きょうしつ」の「しつ」と同じ漢字だよ。「ない」の漢字は「うち」とも読めるよ。
- 3 「りか」の「り」と「じゆう」の「ゆう」の組み合わせだよ。
- 4 「たすけたい」という思いが「ちから」になって出るんだね。
- 5 「よしゅう」や「やく」の「よ」、「けつてい」や「あんてい」の「てい」を書くよ。



分からないときは、  
「ヒント」を見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

- 1 『はやぶさ』打ち上げの秒読み段階に入る。
- 2 転んできずを負う。
- 3 作者の意図を考える。
- 4 漢字の画数を数える。
- 5 休みを返上する。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましょう。

- 1 各自が自由にさらに取って食べる。
- 2 しょうそくがとどえる。
- 3 列をととのえて歩く。
- 4 道ばたに落ちているゴミをひろう。
- 5 まいとし実がなる。

5	4	3	2	1

〈ヒント〉

- 一 1 「秒」は「三秒ルール」と同じ読みだよ。  
「荷物を背負う」にも「負う」が使われているよ。
- 2 「凶」は「ず」と読んではいけないよ。
- 3 「画」は「一画目、二画目」と使うよ。
- 4 「返」は「返事」や「返品」と同じ読みだよ。
- 5 「血」と似ているよ。
- 二 1 「しょう」は「きえる」、「そく」は「いき」と同じ漢字だよ。  
「せいれつ」の「せい」と同じ漢字だよ。
- 2 「捨」と書いたら「すてる」になるから注意。
- 3 「まい」は「まいにち」の「まい」と同じだから、「母」と書かないように。



正しく覚えようね！

分からないときは  
「ヒント」を見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

1 童心に返って遊ぶ。

2 命令に反発する。

3 答えが全く分からない。

4 有名な詩集を買う。

5 しばらく雨宿りをする。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

1 ちまなこになってさがす。

2 わらう門にはふく来る。

3 何事にも一長いったんがある。

4 のうぎように力を入れる。

5 ようもうが原料になっている。

5	4	3	2	1

「ヒント」

一 「童話」の「童」と同じ読みだよ。

2 「発」は「はつ」とは少しちがう音だよ。「出發」も同じだよ。

3 「全然」という言葉を「○つたく」と言いかえることもあるよ。

4 「詩」を「集め」たものが「詩集」だよ。

5 「雨」は「あ○」と音を変えるよ。「雨がっぱ」も同じ読みだよ。

二 「皿」とまちがわないように。

2 「こうぶく」の「ふく」だよ。

3 「たん」は「長」と反対の意味の漢字を書くよ。「長所」と「たん所」とも言うよ。

4 「ぎょう」は「きぎょう」「やじゅぎょう」の「ぎょう」と同じだよ。

5 「ようもう」とは、「ひつじ」の「け」のことだよ。

5	4	3	2	1



がんばっているね！

分からないときは  
〈ヒント〉を見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

- 1 なわとびの練習をする。
  - 2 新緑が目に入る。
  - 3 気に入った洋服を着る。
  - 4 終始笑顔で会話をする。
  - 5 代打で出場する。
- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

- 1 南極大陸にあるしょうわ基地。
  - 2 きんじよに広い公園がある。
  - 3 急なさかみちを上る。
  - 4 しかいに治りようしてもらおう。
  - 5 ペンをふでばこにしまう。
- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|   |   |   |   |   |

〈ヒント〉

一 1 教科書や問題集には、「練習問題」があるよ。

2 「緑」は「みどり」と読まずに、音読みで「〇よ〇」と読むよ。

3 着る物売っている所を「洋服売り場」と表すよ。

4 「一日中」のことを「終日」と言うよ。

5 「交代」は「こうたい」だけど、「代打」は「たい」とは少しちがうよ。

二 1 「しょう」は、「照」とにている漢字で、「わ」は「へいわ」の「わ」だよ。

2 「ちかいところ」だよ。それぞれの字を音読みしているよ。

3 「さか」は「つちへん」だよ。

4 「しかい」は「は」を治すいしやだよ。

5 「ふで」は「えんぴつ」の「ひつ」と同じ漢字だよ。「はこ」という漢字は、「たけ」「き

め」の組み合わせだよ。



分かるよときは  
「ヒント」を見よう。

第 学年 組 番 名前

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましよう。

- 1 食べ放題の店に行く。
- 2 船が三か月ぶりに帰港する。
- 3 とうふを二丁買う。
- 4 漢字の部首を辞書で調べる。
- 5 川の流<sup>れ</sup>が速い。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましよう。

- 1 すいぞくかんに行く。
- 2 川のむこう側<sup>がわ</sup>に家がある。
- 3 いんしゅ運転を取りしまる。
- 4 銀行のつうちょうを持つている。
- 5 自転車にのる。

5	4	3	2	1

「ヒント」

- 一 「放」は「ほお」ではないから気をつけてね。
- 2 「帰」、「港」ともに音読みをするよ。
- 3 住所で使われる「二丁目」「二丁目」と同じ読みだよ。
- 4 「首」は「くび」ではないよ。短歌を数えるときに、「二首、二首」と使うよ。「早い」も同じ読みだよ。
- 二 「かぞく」の「ぞく」、「としよかん」の「かん」を使うよ。
- 2 「右をむく」という場合<sup>に</sup>使う漢字だよ。
- 3 「いんしゅ」とは、「さけ」を「のむ」ことだよ。
- 4 「つう」は「つうじる」という漢字だよ。「ちょう」は、「巾<sup>はば</sup>」に「長」という字を組み合わせてできるよ。
- 5 漢字を書くときに、三つの横画の長さに気をつけよう。





どんどん進んでるね！

第 学年 組 番 名前

分からないときは、  
ヒントを見よう。

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましよう。

- 1 わが市には寺社が多い。
- 2 黄金にかがやく。
- 3 根気よく本を読む。
- 4 ちょうど死角になる場所がある。
- 5 外国で見聞を広げたい。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字で書いてねいに書きましよう。

- 1 新たな地区にしんしゆつする。
- 2 前を走っている人をおいかける。
- 3 なみまにただよう小舟こぶねが見える。
- 4 三のばいすうを答える。
- 5 ていねいな字でノートにうつす。

5	4	3	2	1

〈ヒント〉

- 一 1 「寺」は「てら」と読まないよ。
- 2 この場合は「こがね」ではないよ。
- 3 ずっと続けられることを「根気がある」と言うよ。
- 4 「死」は「必死」と同じ読みだよ。「角」は「かど」とは読まないよ。
- 5 「百聞は一見にしかず」ということわざに同じ読みが使われているよ。
- 二 1 「すすん」で「で」ていくことだよ。
- 2 「つい」か、「ついで」の「つい」と同じ漢字だよ。
- 3 「なみ」の「あいだ」のことを「なみま」と言うよ。
- 4 「ばい」は「にんべん」だよ。
- 5 「移す」、「映す」とまちがえないようにね。



第 学年 組 番 名前

分からないときは、  
ヒントを見よう。

一 次の1から5までの文の——部の漢字の正しい読みを、ひらがなで書いてねいに書きましょう。

- 1 細かい分<sup>たん</sup>担を決めておく。
- 2 一年前に上京した友<sup>だち</sup>達と会う。
- 3 深海の生物のなぞを<sup>さぐ</sup>る。
- 4 先生に暑中見まいのはがきを送る。
- 5 世界の広さを知る。

5	4	3	2	1

二 次の1から5までの文の——部のひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

- 1 あん<sup>か</sup>ごうを解<sup>かい</sup>読する。
- 2 さい<sup>じ</sup>つに兄と出かける。
- 3 こう<sup>そく</sup>道路を車で走る。
- 4 姉のはつ<sup>そ</sup>う力にはおどろかさされる。
- 5 家で二時間べん<sup>き</sup>きようする。

5	4	3	2	1

〈ヒント〉

- 一 送りがなが「かい」だから、「ほ<sup>そ</sup>い」ではないよ。
- 2 「上」は「うえ」ではないよ。 3 「深」も「海」も音読みだよ。
- 4 夏の終わりや秋の初めになってもまだ暑いことを「残暑」と言うよ。
- 5 「世」は「よ」や「せい」ではない読み方をするよ。
- 二 1 「あん」は「明」と反対の漢字だよ。「ごう」は「き<sup>ご</sup>う」と同じだよ。
- 2 「さい」は「まつり」という漢字を書くよ。
- 3 「こうそく」の反対は「低そく」だよ。「そく」は「はやさ」のことだよ。
- 4 「はつ」は「はつ案」「はつ見」と同じだよ。「そう」は「感<sup>そ</sup>う」と同じだよ。
- 5 「べん」の漢字には「力」が使われているよ。